

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社 クラスト		
事業所名	やぎあん ユニット名 1F		
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3-1-12		
自己評価作成日	平成 28年 12月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様おひとりおひとりの生活(生活習慣や趣味、嗜好など)が継続できるよう、情報収集に力を入れております。楽しみを持って毎日を過ごしていただけるよう、行事にも力を入れており、地域の宝を招待しての「夏祭り」は恒例となっております。日々のご様子は写真におさめ、ご家族様の面会時などに入居者様と一緒に楽しんでいただけるよう居室に飾らせていただいたり、運営推進会議で取り組みの報告を行なう際にご覧になっていただいております。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、地下鉄東西線の終点、八木山動物公園駅から日赤病院の方向へ約1.3Km、徒歩約15分の、バス通りに面した環境の良い住宅街の一角にある。理念は、創設以来継続している「我がまま」とし、今年度のサブタイトルを「和」と定め、その人らしい生活を支えている。夏祭り、ハロウィン、東北工業大学の職場体験の受け入れ等により、地域の方々と交流している。常勤の看護師や協力医療機関の連携もよく、健康管理も行き届き、入居者や家族の安心に繋がっている。職員は、外部研修・内部研修等各種勉強会に参加し、資質を向上させ、入居者一人ひとりがその人らしく、安心して暮らせるよう、支援している。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 29年 1月 16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん )「ユニット名 1F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修の機会に職員で理念を構築し、玄関に掲示して確認し、実践しています。	全職員が年度末にサブタイトルの見直しを実施し、前年度は実現できたか否か、今年度はどうするかを検討し、「和」とした。入居者を中心とし、家族・職員・地域等が協力し、一人ひとりのその人らしい生活を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会を2ヶ月に1回実施しており、地域の町内会長や民生委員との交流を持っています。加えて、近所の保育所の園児とも、季節ごとのイベント(ハロウィンなど)での交流を持っています。	八木山南町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。恒例の夏祭りには、焼きそば等を無料で提供し、多くの方が参加して楽しんでいる。ハロウィンでは保育園児が来訪し、お菓子をあげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中の挨拶や声かけを積極的に行っており、施設の現状を知ってもらう機会になっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日々の取り組みや行事での様子についての報告をさせて頂き、ご家族様の考えや思いを反映できるような柔軟な発想でサービスの向上に努めています。	奇数月に年6回開催している。クリスマスの行事や定義山への遠足等を報告した。メンバーから「良くしていただいている」と言われている。民生委員から避難訓練に地域の方への声掛けを要望された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会に参加させて頂いたり、介護保険や生活保護などの担当職員と情報交換を行ない、協力関係を継続しています。	介護保険の区分変更や生活保護の受給等で担当者と連携が取れている。外部研修参加予定表により、職員が研修に参加し、伝達教育をしている。管理者が地域の勉強会に講師として参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアへの取り組み、研修を行なっています。早朝や夜間の外出を希望される入居者様へは、落ち着いて過ごしていただける環境や声かけ、対応をしながら、玄関にセンサーマットを敷くことで、施錠をせずに職員が気づくことができます。	内部研修計画により身体拘束及び虐待防止について研修を実施し、拘束することの弊害について理解している。頻繁に外出するため、玄関にセンサーマットを敷き、職員も付き添って外出している。地域の見守り、声かけ等の協力を呼びかけていただきたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部研修を行ない、不適切なケア(言葉遣いなど)を無くすようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護、成年後見制度について学ぶ機会をもっています。まもり一歩を活用されている入居者様がいらっしゃるのので、それに伴って権利擁護に関する制度や仕組みを学ぶ機会になっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をご家族様にとっていただき、説明を行なっています。また、契約以降でも疑問や質問がある場合には、いつでも訪ねていただけるよう説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置により、ご家族様などからのご要望を受け付けています。居室ベッド周囲のお掃除についてのご意見をいただき、即日対応しました。	意見箱の他、面会時、プラン更新時、運営推進会議時等に意見を聞いている。清掃はより丁寧により毎日実施している。交通量が多く、事故が心配な家族がいるため、外出には職員が同行するよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行ない、法人役員も参加しながら職員の意見を反映するように努めています。また、職員の契約更新時には、法人役員や外部に施設顧問要請を行ない、職員との面談を行なっています。	毎月のカンファレンスで、職員の意見や要望を聞いている。職員不足で夜勤者が少ないため、頻繁に外出する方に対応できないとの意見で、5時から10時までの早勤2名の職員を採用した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の職員との契約更新時に、能力に見合った給与の引き上げを行なっています。また、経験や勤続年数に応じながら、パート職員から社員雇用を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月実施しています。職員ひとりひとりの能力や特性に合わせて、やぎあん全体の質の向上に資するよう、外部研修にも積極的に参加するよう職員に働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した中で交流を持った施設への見学や情報交換を行なっています。また、他事業所の取り組みを聞くことで、自事業所の質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に聞き取りを行ない、ニーズの把握に努め随時確認し、より良いサービス提供に努めています。ご入居されてからもご要望を伺い、言葉にできない方も表情などからニーズを読み取るよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問で伺った際や面会の際に、ご家族様に提供できるサービスの内容をお伝えし、ご意見やご要望を聞くようにしています。お電話や封書でお伺いすることもあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前にご自宅などにお伺いし、ご本人様やご家族様の状況やニーズの把握に努め、必要に応じて柔軟に他のサービスについての説明も行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安全・安楽に過ごすことができる環境を整えるとともに、日々の生活の中で調理(盛り付けは配膳など)や洗濯物たたみなどの家事を一緒に行なうことで、「共生」する場となるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多いご家族様にはその都度、面会の少ないご家族様には電話やお手紙で、入居者様の心身の状態をお伝えしています。加えて、行事などの催し物にお誘いし、情報交換を密にするよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は設定していますが、ご都合に合わせて柔軟に対応しています。なかなか会話が伝わらない際には仲介し、入居者様と面会に来られた方が楽しい時間を過ごすことができるよう配慮しています。	家族以外にも友人・知人の訪問があり馴染みの関係を維持している。墓参りは職員が支援し、自宅近所をドライブしている。誕生日や年越しに自宅に外泊し、家族と外食して帰る方等もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の家事などの活動や、行事や外出などを通して、良好な人間関係が構築、継続できるよう環境面からサポートしています。なかなかコミュニケーションがとりにくい際には仲介し、関係づくりに努めていました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様が来所されることがあり、関わりを大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、思いや希望、意向を伺う機会をもっています。意思の確認をとることが困難な方も、それまでの生活習慣や日々のご様子、ご家族様から伺った内容などから想像し、その人らしさを大切にしています。	習字・俳句等が得意な方には潜在能力を発揮できるよう支援している。「白玉の代用餅は嫌、本当の餅が食べたい」と鏡開きの餅を食べた。新年会・クリスマスには少々アルコールをたしなんだ方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、面会に来られるご友人様などからお話を伺い、生活歴や暮らし方についての把握に努めていました。その情報を、日々の支援にいかしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	収集した情報から得た、ひとりひとりの過ごされてきた生活習慣、生活スタイル、生活リズムを大切に、本人様らしく過ごせるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向、希望、思いをお聞きし、カンファレンスに参加した職員が意見を出し合って介護計画を作成しています。また、必要に応じて看護師や医師の助言を得ています。	アセスメント表から、居室担当の職員と検討してプランを作り、カンファレンスにかけ、職員の意見を聞きケアプランを作成する。骨折した方の退院後の対応を医師等の意見を入れ、見直す等している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にしたケース記録を行っており、事実に対しての職員の考えやその対応と入居者様の変化がわかるようにしています。加えて、申し送りノートを使用し、細かい情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談し、ひとりひとりのニーズに合わせた対応ができるよう、訪問マッサージや訪問理容を取り入れています。また、通院の付き添いや近所へのお買い物の付き添いなど、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居される以前の生活の中で、日々の買い物に出かけていた店や場所などに継続して出かけられるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2人の入居者様は、ご入居前からのかかりつけ医に通院されています。送迎の際には、ご家族様の協力を得ています。	協力医とは良好な関係が築かれており、月2回の往診がある。看護師が常勤し、医療ケアにあたっている。かかりつけ医の受診時は家族が付添い、受診結果は看護師が確認し、全職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護業務についているため、日常的にすぐ報告・連絡・相談でき、対応できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院し、再入居されることを目標に、病院と連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と相談の上、ご家族様にお伝えし、今後どうされるのかを話し合っています。	入居時に「重度化期における対応（看取り）の指針と同意書」を説明し、同意を得ている。看取りの経験のない職員には研修を実施している。終末期には、段階的に家族、医師、看護師、管理者等が十分に話し合い、看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはすぐに看護師と管理者に電話連絡の上、対応の指示を仰いでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っていました。	避難訓練は夜間想定を含め年2回実施した。エレベーターが使用不能の想定で、職員3名が地域住民の役をやり、階段で2階の入居者を避難させた。消防から、地域の住民の支援が必要との指導があった。	避難訓練への対応は、職員だけでは限界がある。大家、運営推進会議のメンバー、隣接する住民等に働きかけ、地域から協力を得られることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を行ない、ひとりひとりの入居者様を尊重する声のかけ方、自尊心についてなどを学び、日々の実践にいかしています。	名前には「さん」をつけて呼んでいる。着替え時には部屋のドアを閉め、プライバシーに配慮している。失禁した時は小さな声で「大丈夫ですよ」と声がけし、トイレに誘導したり居室で衣類を交換する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定ができる場面では、ご本人様の意向を尊重し、意思表示できるような工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、大まかな時間枠の中で、入居者様の意向を伺いながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服装にならないよう、ご本人様に選んでいただけるような支援の工夫をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食後の食器洗い、食器拭きなど、毎日の生活の流れの中で手伝ってくださっています。	食事担当の職員が、入居者の食べたい物を聞いてメニューを作成している。好みは麺類、いなり寿司、パン等である。「うまい鯨勘」や「ひな野」で外食をした方もいる。新年会では寿司職人に依頼し刺身を出した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない入居者様については、おやつなどの補食やメイバランスなどの栄養補助食品を提供し、栄養面をサポートしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアの声かけを行なっています。ご自分では難しい方は介助しています。訪問歯科受診を取り入れており、治療や検査、口腔ケアの指導をもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標におき、ひとりひとりの排泄に対しての思いを伺いながら、声かけや介助を行なっています。紙パンツやパットを使用している入居者様も、汚されることが少なくなってきました。	排泄チェック表を利用し、時間により個々に声かけし支援をしている。体格にあわせて布パンツを大き目の物に変え、動作がスムーズになった。そわそわしたり、立ったり座ったりするのはトイレのサインである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供しています。入浴の際など、腹部のマッサージを行なっています。それでも便秘になった際には、ひとりひとりの排便の間隔に合わせて、下剤を服用していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おひとりおひとりに声かけをしています。その日、その時に入りたい方に入浴して頂いていました。日にちの間隔が空いてしまった方には、声かけなど対応を工夫し、入って頂けるよう柔軟な対応をしています。	毎日入浴可能で、週平均2～3回の利用である。入浴剤や、季節の柚子湯等を使用し、楽しめる工夫をしている。重度者にはイスを使用してシャワー浴で支援している。風呂好きで、「極楽湯」に行く方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりおひとりの生活リズムをみながら、日中の声かけで午睡をとれるよう、疲れないうで生活できるよう配慮しています。睡眠薬を内服されている方はいません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との相談により、服薬の量は少なくなっている方が多いです。薬の種類を問わず、確実に内服していただけるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常にコミュニケーションをとり、おひとりおひとりの要望を伺えるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様によっては毎日の散歩やドライブで対応している方もいらっしゃいます。ユニット入居者様全員での外出では、数ヶ月に1回の遠足を行なっています。	遠足は、マイクロバスを借り定義山やうみの杜水族館等に出かけた。花見は三神峯公園や野草園等に、紅葉は秋保等に出かけた。日常的には散歩を兼ね、近くのスーパー、コンビニ、薬局等に出かけ、食材や日用品等の買物をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が、ご自分でお金を管理されることはありませんが、ご希望を伺いながら、好きなものの購入支援を行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成し、ご家族様やご友人などのやりとりが継続できるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や廊下、共用スペースの掲示物の工夫をしています。証明も、ご本人様の意向を伺いながら調整しています。	フロアは温度・湿度が適切に管理され、落ち着いて明るい雰囲気である。季節の飾り付けは、新年会が終わり、これから豆まきである。毛筆の書や俳句、生け花等が飾られ、入居者は、テレビを見たり会話等をしてそれぞれが寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中に小上がりがあり、足を伸ばしたりおひとりの時間を過ごしたりできるよう、配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器など、ご本人様が使用していたなじみのものを持参していただき、居心地のいい環境づくりを心掛けています。	使い慣れたタンス、小物入れ等を持ち込み、家族や行事の写真等を貼り、自分らしく居心地よく暮らせるようにしている。骨折した方の居室にはセンサーを置き、動きが分かるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる様々な箇所に手すりを設置し、歩かれる方や車いすで移動される方の安全な移動の工夫をしていました。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社 クラスト		
事業所名	やぎあん ユニット名 2F		
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3-1-12		
自己評価作成日	平成 28年 12月 18日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 29年 1月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様おひとりおひとりの生活(生活習慣や趣味、嗜好など)が継続できるよう、情報収集に力を入れています。楽しみを持って毎日を過ごしていただけるよう、行事にも力を入れ、地域の方々を招待しての「夏祭り」は恒例となっています。日々のご様子は写真におさめ、ご家族様の面会時などに入居者様と一緒に楽しんでいただけるよう居室に飾らせていただいたり、運営推進会議で取り組みの報告を行なう際にご覧になっていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、地下鉄東西線の終点、八木山動物公園駅から日赤病院の方向へ約1.3Km、徒歩約15分の、バス通りに面した環境の良い住宅街の一角にある。理念は、創設以来継続している「我がまま」とし、今年度のサブタイトルを「和」と定め、その人らしい生活を支えている。夏祭り、ハロウィン、東北工業大学の職場体験の受け入れ等により、地域の方々と交流している。常勤の看護師や協力医療機関の連携もよく、健康管理も行き届き、入居者や家族の安心に繋がっている。職員は、外部研修・内部研修等各種勉強会に参加し、資質を向上させ、入居者一人ひとりがその人らしく、安心して暮らせるよう、支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 2F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、内部研修を行ない、事業所の理念について考える機会をもっています。年度替わりの時期に合わせて、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた新しい理念を考えて周知し、実施していきます。	全職員が年度末にサブタイトルの見直しを実施し、前年度は実現できたか否か、今年度はどうするかを検討し、「和」とした。入居者を中心とし、家族・職員・地域等が協力し、一人ひとりのその人らしい生活を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に行なっている災害を想定した避難訓練への参加を促しています。毎年恒例となっている行事「夏祭り」へ、近隣住民の方々を招待しています。	八木山南町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。恒例の夏祭りには、焼きそば等を無料で提供し、多くの方が参加して楽しんでいる。ハロウィンでは保育園児が来訪し、お菓子をあげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の勉強会などに参加しさせていただき、日々の取り組みや介護についての悩みなどを話し合える機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日々の取り組みや行事での様子についての報告をさせて頂き、ご家族様の考えや思いを反映できるような柔軟な発想でサービスの向上に努めています。	奇数月に年6回開催している。クリスマスの行事や定義山への遠足等を報告した。メンバーから「良くしていただいている」と言われている。民生委員から避難訓練に地域の方への声掛けを要望された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会に参加させて頂いたり、介護保険や生活保護などの担当職員と情報交換を行ない、協力関係を継続しています。	介護保険の区分変更や生活保護の受給等で担当者との連携が取れている。外部研修参加予定表により、職員が研修に参加し、伝達教育をしている。管理者が地域の勉強会に講師として参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安易な発想から、行動の制限や抑制につながらないように、内部研修で身体拘束についての考え方についての周知徹底をはかっています。	内部研修計画により身体拘束及び虐待防止について研修を実施し、拘束することの弊害について理解している。頻繁に外出するため、玄関にセンサーマットを敷き、職員も付き添って外出している。地域の見守り、声かけ等の協力を呼びかけていただきたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部研修を毎年行なっており、不適切な介護を行なわないためにはどうしたらいいか、適切な介護を行なうためには何が必要かを考える機会を持ち、実践にいかしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その内容を内部研修で報告しています。今後、入居者様で成年後見制度をつかう場合も想定されることから、必要機関とも連携していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をご家族様にとっていただき、説明を行なっています。また、契約以降でも疑問や質問がある場合には、いつでも訪ねていただけるよう説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、日々の活動報告を行なうとともに、市の実地指導や外部評価の結果を報告しています。また、内部、外部に第三者機関を設け契約時に苦情やご意見がある場合の連絡先をご説明しています。	意見箱の他、面会時、プラン更新時、運営推進会議時等に意見を聞いている。清掃はより丁寧に毎日実施している。交通量が多く、事故が心配な家族がいるため、外出には職員が同行するよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行ない、法人役員も参加しながら職員の意見を反映するように努めています。また、職員の契約更新時には、法人役員や外部に施設顧問要請を行ない、職員との面談を行なっています。	毎月のカンファレンスで、職員の意見や要望を聞いている。職員不足で夜勤者が少ないため、頻繁に外出する方に対応できないとの意見で、5時から10時までの早勤2名の職員を採用した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の職員との契約更新時に、能力に見合った給与の引き上げを行なっています。また、経験や勤続年数に応じながら、パート職員から社員雇用を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月実施しています。職員ひとりひとりの能力や特性に合わせて、やぎあん全体の質の向上に資するよう、外部研修にも積極的に参加するよう職員に働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した中で交流を持った施設への見学や情報交換を行なっています。また、他事業所の取り組みを聞くことで、自事業所の質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に聞き取りを行ない、ニーズの把握に努め随時確認し、より良いサービス提供に努めています。ご入居されてからもご要望を伺い、言葉にできない方も表情などからニーズを読み取るよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前にご家族様からも聞き取りを行ない、小さな希望・要望・願望からでもニーズを把握できるような関係づくりに努めています。また、ご入居中のご様子なども報告し、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前にご自宅などにお伺いし、ご本人様やご家族様の状況やニーズの把握に努め、必要に応じて柔軟に他のサービスについての説明も行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安全・安楽に過ごすことができる環境を整えるとともに、日々の生活の中で調理(盛り付けは配膳など)や洗濯物たたみなどの家事を一緒に行なうことで、「共生」する場となるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多いご家族様にはその都度、面会の少ないご家族様には電話やお手紙で、入居者様の心身の状態をお伝えしています。加えて、行事などの催し物にお誘いし、情報交換を密にするよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、これまで通っていた美容室や病院へ通えるよう配慮し、スーパーなどで買い物できるよう支援しています。また、ご友人からのお誘いで外出される方の、安全な外出環境を整えるよう配慮しています。	家族以外にも友人・知人の訪問があり馴染みの関係を維持している。墓参りは職員が支援し、自宅近所をドライブしている。誕生日や年越しに自宅に外泊し、家族と外食して帰る方等もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の家事などの活動や、行事や外出などを通して、良好な人間関係が構築、継続できるよう環境面からサポートしています。なかなかコミュニケーションがとりにくい際には仲介し、関係づくりに努めていました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても施設へ近況の報告をしに来られるご家族様もおり、関わりが継続できるよう配慮していました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、思いや希望、意向を伺う機会をもっています。意思の確認をとることが困難な方も、それまでの生活習慣や日々のご様子、ご家族様から伺った内容などから想像し、その人らしさを大切にしています。	習字・俳句等が得意な方には潜在能力を発揮できるよう支援している。「白玉の代用餅は嫌、本当の餅が食べたい」と鏡開きの餅を食べた。新年会・クリスマスには少々アルコールをたしなんだ方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、面会に来られるご友人様などからお話を伺い、生活歴や暮らし方についての把握に努めていました。その情報を、日々の支援にいかしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のご様子を丁寧に記録することで、毎日の心身の状態や体調、活動の様子を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向、希望、思いをお聞きし、カンファレンスに参加した職員が意見を出し合って介護計画を作成しています。また、必要に応じて看護師や医師の助言を得ています。	アセスメント表から、居室担当の職員と検討してプランを作り、カンファレンスにかけ、職員の意見を聞きケアプランを作成する。骨折した方の退院後の対応を医師等の意見を入れ、見直す等している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にしたケース記録を行っており、事実に対しての職員の考えやその対応と入居者様の変化がわかるようにしています。加えて、申し送りノートを使用し、細かい情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談し、ひとりひとりのニーズに合わせた対応ができるよう、訪問マッサージや訪問理容を取り入れています。また、通院の付き添いや近所へのお買い物の付き添いなど、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居される以前の生活の中で、日々の買い物に出かけていた店や場所などに継続して出かけられるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とは別に、以前からのかかりつけ医への受診を希望される入居者様があり、ご家族様のご希望を受け通院へ付き添い、状況の説明をしていました。症状に合わせての専門医受診も行なっています。	協力医とは良好な関係が築かれており、月2回の往診がある。看護師が常勤し、医療ケアにあたっている。かかりつけ医の受診時は家族が付添い、受診結果は看護師が確認し、全職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、24時間オンコール対応を行なっています。日々の健康状態を記録しており、定期不定期問わず病院受診の際にはすぐに対応できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急の入院の際には、必要な情報が用意できるようにまとめています。また、ご家族様の了承を得ながら、退院調整の職員や看護師の説明の機会に立ち会い、必要な治療と早期の退院が実現できるよう連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際に「看取りに関する指針」を説明しながら、意向の確認に努めています。また、重度化に伴い、ご家族様と医師、施設職員が集まる機会をもうけ、今後の方針を十分に話し合いながら看取りに望めるよう取り組んでいます。	入居時に「重度化期における対応（看取り）の指針と同意書」を説明し、同意を得ている。看取りの経験のない職員には研修を実施している。終末期には、段階的に家族、医師、看護師、管理者等が十分に話し合い、看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを整備し、内部研修を行ない職員への周知を図っています。また、普段から看護師と報告・連絡・相談できることで、急変に対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを整備しています。加えて、年2階の避難訓練を行っており、地域の方にも参加していただき、もしもの時に協力を得られるよう協力体制を築いています。	避難訓練は夜間想定を含め年2回実施した。エレベーターが使用不能の想定で、職員3名が地域住民の役をやり、階段で2階の入居者を避難させた。消防から、地域の住民の支援が必要との指導があった。	避難訓練への対応は、職員だけでは限界がある。大家、運営推進会議のメンバー、隣接する住民等に働きかけ、地域から協力を得られることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の基本情報を元にし、ご家族様やご友人の方から伺ったお話で肉付けして、ひとりひとりの尊厳を損なわないような対応を心掛けています。	名前には「さん」をつけて呼んでいる。着替え時には部屋のドアを閉め、プライバシーに配慮している。失禁した時は小さな声で「大丈夫ですよ」と声がけし、トイレに誘導したり居室で衣類を交換する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴などの様々な生活場面で、自己選択・自己決定ができるよう、柔軟な声がけ対応をしています。コミュニケーションをとることが難しい入居者様でも、表情や目の動きなどでご意向を伺うようにしていました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのご希望に合わせて、生活の流れでの買い物やドライブ、散歩などの外出ができるよう柔軟に対応していました。室内で過ごされる方のために、DVDや番組の録画も用意しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分が着たい衣類を着用していただいています。ご自分で選ぶことが難しい場合には、その時の季節や天候、気温に合わせて一緒に選んでおりました。日々の整容にも気を配っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事記録とチェック表を活用し、嗜好調査をかねた好みの把握に努め、献立に反映しています。また、買い物から調理、片付けまで入居者様に関わっていただき、楽しみながら行なえるよう配慮しています。	食事担当の職員が、入居者の食べたい物を聞いてメニューを作成している。好みは麺類、いなり寿司、パン等である。「うまい鮎勘」や「ひな野」で外食をした方もいる。新年会では寿司職人に依頼し刺身を出した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の各時間帯の食事量を記録しており、何をどれくらい食べたのかがわかるようにしています。生活習慣や食事習慣などで必要な食事量が確保できない時には、おやつなどの捕食を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる限り毎食後の口腔ケアを声がけして行なっていました。ご自分では難しい方については、適宜介助しています。義歯をお使いの方は入れ歯洗浄剤を購入していただき、每晚洗浄を行なっていました。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を目安に、ひとりひとりの排泄間隔をある程度予測し、トイレへご案内しています。トイレの希望が多い方には、排泄の都度しっかり出し切れるよう声がけを行ない、穏やかに過ごせるよう配慮しています。	排泄チェック表を利用し、時間により個々に声がけし支援をしている。体格にあわせて布パンツを大き目の物に変え、動作がスムーズになった。そわそわしたり、立ったり座ったりするのはトイレのサインである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多くとれるよう献立を工夫し、水分量も多く摂れるよう声がけしています。運動の機会として、テレビ体操を行なっています。それでも解消されない便秘は、看護師に相談し、医師の処方に対応していました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の「お風呂に入りたい時、入りたい日」を最大限に尊重しています。意思を伝えるのが難しい方は、入浴の間隔が空きすぎないように、時間帯にも配慮しながらの支援を行なっています。	毎日入浴可能で、週平均2～3回の利用である。入浴剤や、季節の柚子湯等を使用し、楽しめる工夫をしている。重度者にはイスを使用してシャワー浴で支援している。風呂好きで、「極楽湯」に行く方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない時には無理に横になることはせず、一緒の時間を過ごして安心感を感じて頂けるよう支援しています。日中の午睡も休息と考え、適度に休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、内服薬の内容、効用、副作用について確認しています。与薬ミスのないように、いつ、どなたの内服薬かもダブルチェックしています。内服薬に変更がある際には、申し送りノートに記載し、周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物など、手仕事得意な方には、繕い物や雑巾などをお願いしています。調理でも、味見や盛り付けに積極的に参加していただいています。気分転換のため、近所への買い物や散歩、ドライブを実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日と入居者様のご希望・ご気分に合わせて、近所への散歩や買い物、ドライブなどの支援を行なっています。定義山への遠足では、行き先のお店で職員の協力を得ることができました。	遠足は、マイクロバスを借り定義山やうみの杜水族館等に出かけた。花見は三神峯公園や野草園等に、紅葉は秋保等に出かけた。日常的には散歩を兼ね、近くのスーパー、コンビニ、薬局等に出かけ、食材や日用品等の買物をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の金庫でお預かりしており、普段の買い物やご希望のあった際に、お好みのもので購入して頂いています。入居者様によってはお金を手渡し、支払って頂いたり、残金の計算をして頂いてました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご希望に応じてお使い頂ける環境になっています。入居者様によっては、ご家族様からのお電話の取り次ぎも行なっています。加えて、年末には年賀状を出して頂けるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースにソファを置き、季節に合わせて掲示物を変え、居心地良く過ごせるよう配慮しています。室温調整では、温湿度計と外気温との差を考えながら、快適に過ごして頂けるよう調整していました。	フロアは温度・湿度が適切に管理され、落ち着いて明るい雰囲気である。季節の飾り付けは、新年会が終わり、これから豆まきである。毛筆の書や俳句、生け花等が飾られ、入居者は、テレビを見たり会話等をしてそれぞれが寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性や関係性を観察しながら、テーブルの配置を工夫しています。男性がおひとりなので、お互いに気を遣わないよう、配膳の際などは配慮してます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて生活できる環境を作るために、愛着のあるもの、思い出のあるものを持参して頂くよう説明をしています。加えて、入居してからの写真や作品などを飾り、居心地のいい空間作りの工夫をしています。	使い慣れたタンス、小物入れ等を持ち込み、家族や行事の写真等を貼り、自分らしく居心地よく暮らせるようにしている。骨折した方の居室にはセンサーを置き、動きが分かるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチンのため、入居者様が調理や盛り付けなどの家事に参加しやすい作りになっています。加えて、随所に手すりを設置しており、安全に歩行できる環境づくりにつながっています。		